

第 59 期 事業報告

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 3 1 日まで

当法人はこの御殿場の地に昭和 30 年に移転以来、地域社会の福祉増進のために医療事業を行い、あわせて地域住民の生活向上を図ることを目的に、生活困窮者の助成、病院の運営、福祉、介護、教育事業などを展開、これらを通じて、いかにして地域の方々のお役に立てる活動が出来るかを追求してまいりました。現在では公立または公的病院のないこの御殿場市・小山町に、3 病院を運営し、2 次救急の約 8 割を担当、耳鼻科・精神科を除いて重要な科目は不採算であろうとすべて開設し、3 病院と訪問看護事業、介護事業の緊密な連携体制の下に地域に貢献する法人として活動してきました。

法人制度の改革にあたり、今までの活動を見直す絶好の機会と捉え、以下の 5 点を重点項目として掲げ、公益法人活動を推進しております。

- 1、私たちの活動範囲は、御殿場・小山町の地域限定とし、県内でも不足している医療・福祉・介護・教育事業を地域のための公益活動に集中する。
- 2、私たちは、健康キャンペーン・市民講座を定期的に行い、地域の方々健康で生き甲斐のある生活をおくれるような取組みを押し進めていく。
- 3、私たちは、地域医療・福祉・介護が安定的に維持・発展するために、法人の垣根を越えて他の病院・施設に対し、支援活動を積極的に実施する。人的、経済的支援に限らず、知識・技術協力も積極的に推し進める。
- 4、私たちは、将来を担う医療従事者の育成事業を、御殿場看護学校の運営、認可保育園の支援事業と併せて教育事業の柱とする。そして育成した医療従事者が、住民の健康を守るための地域啓蒙活動・医療活動を、積極的に展開できるように推進支援する。
- 5、私たちは、公的病院の役割を代行し、地域に不足している医療分野を開設し、維持・発展させる活動を通じ、地域医療の充実を実現する。特に現在、地域において整備が遅れている急性期消化器疾患の救急対応と ICU/CCU の開設を推し進める。また静岡県立がんセンターと連携して癌の予防・手術・化学療法・緩和・リハビリ等心の通う全人的医療を追求する。

24 年度において、公益のために行ってきた事業の概要は以下の通りです。

1. 講座、セミナー、育成

1-1 出前授業

御殿場小山地域の中学校、高等学校に出向き、将来の看護師及び医療従事者となるための啓発活動、及び命の大切さの教育を目的とした出前授業を行っている。

授業の内容としては、看護の仕事、看護への道、命について、医療従事者についてなどのほか、学校の要望を受けた内容として、若者の就職率の低下に関して、医療従事者として活動する道の啓発も取り入れている。さらに興味を持った若者に対しては、「2.職場体験実習」に参加する道を開いている。(富士小山病院担当)

平成 22 年度実績 (3 病院) テーマ『看護への道』『いのちの大切さ』

5 校、延授業受講人数 599 人 (内教員 43 名保護者 10 名)

平成 23 年度

2 校 延授業受講人数 83 人 テーマ『看護の仕事』『職業講和』

平成 24 年度は学校側と日程が合わず開催なし

1-2 医療関係の実習生指導

昭和大学、東海大学・日本大学その他大学や御殿場看護学校等大学、専門学校その他の医療関係の実習生に対する実習指導を希望があれば全国どこの学校からも受入れ、医療に係る人材の育成を支援している。又、救急救命士の実習(事前・事後研修・薬剤投与)指導を行っている。訪問看護ステーションにおいては静岡県立がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導も担当する。(3病院・訪問看護・グループホーム担当)

平成 24 年度実績 (御殿場看護学校を除く)

6 校、実習人数 72 人、延実習日数 363 日

学部(職種)別 医歯学部 16 人(16 日) 薬学 15 人(15 日) 看護学部 15 人(25 日) 臨床検査 1 人(3 日) 臨床工学技士 1 人(12 日) 理学療法士 3 人(105 日) 言語聴覚士 2 人(80 日) 視能訓練士 0 人(0 日) 社会福祉士 0 人(0 日) 介護福祉士 0 人(0 日) 救命救急士 19 人(131 日) ホームヘルパー2 級実習 3 人(6 日)

1-3 御殿場看護学校の運営支援

御殿場看護学校は御殿場市医師会設立し、若林理事長が代表を務める御殿場市医師会病院部会(医師会加入 9 病院からなる)が運営を担当する。日本で唯一の医師会と地域病院群が協同して学校を開設・運営する看護学校である。若林理事長が副校長を務め、他に当法人局長が運営委員を務め、看護教育の他、財務、教員人事等運営を司っている。看護学校の実習は、

基礎実習の 66%、領域別実習の 45%は当法人が担当し、又、看護師実習指導者育成についても取り組み、法人全体で 48 人（富士病院 25 人、富士小山病院 13 人、東部病院 8 人、訪問看護ステーション 2 人）を資格取得させ、優秀な看護師育成事業に取り組んでいる。又非常勤講師については、専門基礎分野、専門分野 ・ は病院部会で受け持ち（内 10 時間は開業医が担当）全体 730 時間の内 80.5%である 588 時間を、当法人の有資格者 31 人が講師を務める。内訳は医師 13 名、看護師 13 名、薬剤師 2 名、放射線技師 1 名、社会福祉士 1 名、医療情報システム（S E）1 名である。御殿場市医師会病院部会は、当法人の呼びかけで御殿場市・小山町の 9 病院が看護学校の運営を目的に、一つにまとまり、御殿場市医師会と委託契約を結び、平成 15 年 5 月看護学校開設準備をスタートした。以降当法人が毎月 1 回病院部会を招集し、取りまとめている。又看護教員の管理者である副校長は、該当者が不在の中、初代から 3 代にわたり、当法人で捜しだし就任させた。病院部会資料はすべて当法人が作成、（3 病院・訪問看護・グループホーム担当）

平成 24 年度実績

延実習人数 228 人、延実習日数 1880 日、実習指導者 44 名（静岡県講習会受講済者）非常勤講師人数 28 人、担当時間数 742 時間

1-4 医療従事者育成事業

法人運営で一番重要なことは、人材育成である。地域社会の福祉の増進と地域住民の生活向上を図る為には、地域における医療関係の人材を確保養成し、より高度な専門職としての知識・技術を見につける研修・学習の機会を多く与えることは優秀な人材育成には不可欠である。就労するスタッフは積極的に研修会等に参加させ、研鑽を積ませている。又育ったスタッフが地域の他施設で活躍していくことを応援し、地域に優秀な技術者が広がりそのことが、地域医療を向上させ、法人事業の展開に繋がり、最終的には不特定多数の住民の健康増進に寄与する。

事例：毎年新卒看護師対象に A H A B L S 研修会 富士病院にて開催（昨年 10 名費用 16 万円）など

平成 24 年度実績（3 病院・訪問看護ステーション・グループホーム担当）

富士病院 262 件 372 名参加

参加費 2,912,699 円、旅費等 4,195,975 円

富士小山病院 104 件 参加費 759,739 円、旅費等 1,211,914 円

東部病院 35 件 参加費 280,116 円、旅費等 516,845 円

訪問看護ステーション 23 件 34 名参加

参加費 100,300 円、旅費等 136,045 円

グループホームごてんば 7件8名参加

参加費 44,500円、旅費等 27,240円

院内教育により今期資格を取得した実績

富士病院

介護支援専門員1名(看護師)、A H A B L Sコース認定10名(看護師)、栄養サポート専門療養研修4名(医師1、薬剤師1、管理栄養士1、看護師2)、看護学校実習指導者3名、日本糖尿病療養指導士2名、循環器専門医 2名、認定看護管理者セカンドレベル研修1名(看護師)

東部病院

日本糖尿病療養指導士3名、介護支援専門員1名(看護師)、リンパ浮腫療養士1名(看護師)、弾性ストッキングコンダクター1名、(合計6名となる)、看護必要度評価認定テスト合格2名

富士小山病院

介護福祉士6名(看護助手)、介護支援専門員2名(看護師1、介護福祉士1)、栄養サポート研修終了3名(薬剤師1、管理栄養士1、看護師1)、認知症ケア指導管理士2名(看護師)、リスクマネージャー1名(看護師)、医療メディエーター1名(看護師)、ICLS3名(看護師)、上級救命講習会参加及び認定16名(看護師6名、看護助手5名、他パラ事務5名)

訪問看護ステーションごてんば

介護支援専門員2名(看護師)

グループホームごてんば

介護福祉士2名(ヘルパー)

1-5 セミナー・講演活動

前記 1-4 医療従事者育成事業にて育成したスタッフ(いずれも国家資格取得者)が、病気の疾病と予防、学術セミナー、健康管理、教育指導、啓蒙活動など、健康で長寿のより良い社会の形成に役立つ講演を、専門的な知識を持って、分かりやすい言葉で不特定多数の住民に対し講演している。又、医療従事者に対しても、より専門的な知識の普及を目的に研修会講師を務め、医療従事者の技術向上が最終的には住民の利益に繋がる。地域で開催される医療関連のセミナーに講師等として参加し、地域医療の情報公開に寄与するほか、当法人主催の医療講座を開催し、啓発に努めている。

24年度実績

講座・セミナー・育成事例

・平成24年5月19日~20日他3回講演 大内 紀寿(看護師)

日総研内視鏡看護セミナー（東京）

対象は看護師・内視鏡技師

「一から学べる内視鏡業務」

- ・平成 24 年 6 月 12 日 佐藤 賢（医師）
熱海医師会講演会
「インクレチン療法と DPP-IV 阻害薬」
- ・平成 24 年 8 月 31 日 小林 直樹（視能訓練士）
静岡県立沼津視覚特別支援学校講演会
「視能訓練士の役割と実践」
- ・平成 24 年 8 月 11 日 滝口明子（看護師）
看護協会東部地区支部研修会講師 「災害看護」
- ・平成 24 年 8 月 22 日 滝口明子（看護師）
沼津中央病院 研修会講師「組織・組織人とは」
- ・平成 25 年 10 月 2 日～3 日 西山早苗（看護師）
日本看護協会 看護管理 学会発表
「ケミックス病院でのケリカダ -活用における阻害因子」
- ・平成 24 年 11 月 8 日～9 日 岩上真理香（介護士）
日本慢性期医療協会学会発表 「療養棟職員のストレスケア」
- ・平成 25 年 1 月 24 日 鵜沼 直江（看護師）
身体拘束廃止フォーラム
「スピーチロックをなくすための意識改革への取り組み」
- ・平成 25 年 2 月 2 日 滝口明子（看護師）
看護協会東部地区支部
看護研究発表会(滝口明子が座長を担当)
- ・平成 25 年 2 月 15 日 桑岡 秀子（看護師）
静岡県看護協会東部地区支部
「日帰りで白内障手術を受ける患者の不安要因を知る」

部門内訳

| | |
|-------------------------|------|
| 医師による調査研究・学会等の発表・講演 | 52 例 |
| 看護師による調査研究・学会等の発表・講演 | 14 例 |
| 管理栄養士による調査研究・学会等の発表・講演 | 1 例 |
| 臨床検査技師による調査研究・学会等の発表・講演 | 3 例 |
| その他職種による調査研究・学会等の発表・講演 | 8 例 |

施設内訳

富士病院 66 件、富士小山病院 8 件、東部病院 4 件

2 . 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を受入ている。中学校の体験学習に際しては、一般社会への参加、自己の将来を見据え職業選択の一手段となるよう、指導支援を行っている。さらに、核家族が増えている現在、高齢者とのふれあいやコミュニケーションの方法を伝えている。(3病院・訪問看護・グループホーム担当)

平成24年度実績

17校、1機関 延実習人数65人、延実習日数20日
高根中学3人2日間 (グループホーム)
4高校12人、北郷中学4人1日 (富士病院) 一日看護体験
県立小山高校3年1人 (富士病院) 作業療法士体験
2高校3名 (富士小山病院) 一日看護体験
4中学校9人 (富士小山病院) 介護体験
2高校5人 (富士小山病院) 職場体験
2高校2人 (東部病院) 一日看護体験
裾野市須山中学校2人(東部病院)
社会福祉協議会3名7日 (グループホーム)

3. 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的として、身近に病院が行う医療活動の地域住民への理解の促進のため、毎年、テーマを決めて、当会の看護師及び医師の協働により、講演会の実施、相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、骨密度測定の実施、試供品の提供等を、病院内や市民交流センター等を会場として、すべて無料で行った。

その他に地域医療、生活習慣病に関する普及啓発を行った。

(3病院・訪問看護・グループホーム担当)

平成24年度実績

実施回数15回、 延受講(参加)参加人数 682人

・健康フェスタふじおやま 小山町総合文化会館

6月9日 参加者192人

『中医学ってなんだろう～なぜ人は病気になるのか?』

前畑 昌司(医師)

津軽三味線演奏 栄太郎会

地域の方々を対象に、当院内科医師前畑昌司による講演をはじめ、地域でご活躍されている栄太郎会による津軽三味線演奏を行い、192名の方々にご参加いただき、非常に盛況に終えることができました。

・しゃくなげ祭(東部病院)

参加者148人

医療講演他各種催し〔東部病院〕

- ・減災の日催し（富士病院） 参加者 122 人
各種催し ハンドベル演奏 バザー収益金東北震災に寄付
- ・平成 24 年 11 月 4 日 佐藤 賢 参加者 100 人
- ・東部糖尿病予防キャンペーン イシバシプラザ
糖尿病の啓発・知識の習得・予防を市民に。
- ・糖尿病教室 富士病院会議室にて 毎月 1 回年間 12 回開催
参加者 120 人

糖尿病委員会主催：医師・看護師・薬剤師・検査技師・理学療法士・栄養士で構成（糖尿病委員会は食事療法・運動療法・講座・トピックスの 4 つのチームで構成し、各々教育・啓蒙・指導活動を展開している。）

対象：当会の患者以外に広く一般にも参加を求めている。市民・糖尿病患者、家族・企業・御殿場市健康センター保健士など。

講師：医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士

内容：食事や運動等の生活改善指導

参加料：無料。

4 . 病院、施設等における各種相談助言

4-1 二次救急、小児科医療の入院・救急対応、循環器科医療の入院対応のほか、総合的な診療が可能な唯一の病院を持つ法人であることから、各種の相談・助言への対応を行う。

当会の地域医療ネットワーク（他の病院、大学等を含むネットワーク）を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように助言している。具体的には、御殿場地方を訪れる県内外の学校や団体等からの事前の対応相談、御殿場市介護相談、入居者家族・入居希望者家族等からの相談、患者の受入・治療その他救急救命に必要な措置に関する相談、市内外の病院・診療所等との関係における患者へのより良い診療の対応の相談・助言を行っている。

相談内容例としては、医療機関や特養等の施設からの、摂食障害に関する相談（言語聴覚士等が対応）、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からの認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からの就職相談・社会資源活用の為の相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からの排泄障害に関する相談等がある。基本的には相談料はすべて無料である。（3 病院・訪問看護・グループホーム担当）

平成 24 年度実績 法人総件数

富士病院 15,369 件

医療連携室経由相談件数 5104 件〔他院より紹介 3,470 件、他院への紹介 1,634 件〕ケースワーカー相談件数 9,699 件、介護等に関する専門的相談 531 件、医事課への相談 35 件

小山病院 566 件

医療連携室経由相談件数 241 件、ケースワーカー相談件数 62 件、他院から紹介件数 169 件、他院への転院紹介件数 94 件

東部病院 1,638 件

医療連携室経由相談件数 300 件（他院より紹介 151 件、他院への紹介 149 件）、ケースワーカー相談件数 1,333 件、医事課への相談件数 5 件

4-2 生活困窮者等への支援

生活困窮者、心身障害者、老人等の患者に対して、医療費の一部減額・免除の制度を実施している。更に平成 12 年 1 月より若い保護者の負担軽減により小児の入院機会を平等に与えたいという思いで小児科の部屋代については無料とした。

24 年度実績

富士病院 生活困窮者医療費助成金、部屋代等の減免 214 件 8,366,070 円、小児科差額室料減免（未請求）130 件 5,204,840 円

5 . 二次救急医療、小児科医療、循環器医療、心臓血管医療、その他の科の医療、健診事業、地域連携医療、コメディカルの地域連携における調査、資料収集

社会的なニーズの高い医療、看護、公衆衛生等の分野における課題について、調査研究を行い、その成果を学会誌、研究会誌等に公開している。また小児科においては静岡県感染症発生動向調査を平成 11 年より毎週保健所に報告、さらに年報にて各科医療の成果・報告と地域連携実態調査、入院、外来各種調査を一般に広報した。（3 病院・訪問看護・グループホーム担当）

24 年度の実績

| | |
|----------------------|------|
| 医師による調査研究・学会等の発表 | 15 例 |
| 看護師による調査研究・学会等の発表 | 16 例 |
| 管理栄養士による調査研究・学会等の発表 | 1 例 |
| 臨床検査技師による調査研究・学会等の発表 | 3 例 |
| その他職種による調査研究・学会等の発表 | 9 例 |

（発表事例一部）

・平成 24 年 4 月 20 日～21 日 村 康雄（看護師）

近畿心血管治療ジョイントライブ 2012（京都）

- 「カテーテル室における Good と Doubt」
- ・平成 24 年 10 月 13 日 佐藤 賢（医師）
第 86 回日本糖尿病学会中部地方会（名古屋）
「自然軽快でインスリン抗体陰転化し薬物療法が不要となった一例」
 - ・平成 24 年 11 月 2 日～5 日 中村 康雄（看護師）
CCT2012（神戸）
デジタルポスターセッション
講演「循環器領域で専門的にご活躍される看護師さんの取り組み」
 - ・平成 24 年 11 月 18 日 大内 紀寿（看護師）
第 31 回東海消化器内視鏡技師研究会（愛知）
「機器取扱い講習会」
大内は東海地区〔静岡・三重・岐阜・愛知〕の内視鏡技師会長
 - ・平成 24 年 11 月 23 日～24 日 上棚 稔之（放射線技師）
第 12 回静岡県マンモグラフィ講習会講師
県立静岡がんセンター研究所
放射線技師長廣瀬は静岡県放射線技師会の役員〔公的病院外では唯一 1 人〕
 - ・平成 24 年 11 月 23 日～24 日 原田 大朗（医師）
第 15 回日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会（神戸）
「椎弓根スクリュー刺入困難/回避例に対する cortical bone trajectory の有用性」
 - ・平成 25 年 2 月 23 日～24 日 杉山 明宏（言語聴覚士）
第 10 回敬心学園学術研究会（東京）
「在宅 PRG 管理中に介護者が暴力を振るった症例の考察～患者・家族の心理状態の調査～」
 - ・平成 25 年 2 月 28 日 佐藤 賢（医師）
静岡東部インスリン座談会
「インクレチン時代のインスリン療法を考える」
 - ・平成 25 年 3 月 24 日 荻 真（医師）
静岡県腎不全研究会
「ECUM が有効であった急性心腎症候群の 1 例」
 - ・平成 24 年 5 月 11 日 木下龍男（検査技師）
静岡県東部超音波検査研究会 静岡県立がんセンターにて
「心膜内主要の症例呈示」
 - ・平成 24 年 7 月 10 日 木下龍男（検査技師）
静岡県立がんセンターにて

- 「Sigmoid septum の一例」
- ・平成 24 年 12 月 10 日 木下龍男・市川忠好（検査技師）
静岡県立がんセンターにて
「MR の原因について」
市川は県下 3 名の日本超音波検査学会代議員（他 2 名は県立がんセンター）
- ・平成 24 年 10 月 2 日～3 日 西山早苗（看護師）
日本看護協会 看護管理 学会発表
「ケミックス病院でのケミックス活用における阻害因子」
- ・平成 24 年 11 月 8 日～9 日 岩上真理香（介護士）
日本慢性期医療協会学会発表
「療養病棟職員のストレスケア」
- ・平成 25 年 1 月 24 日 鵜沼 直江（看護師）
身体拘束廃止フォーラム
「スピーチロックをなくすための意識改革への取り組み」
- ・平成 25 年 2 月 15 日 桑岡 秀子（看護師）
静岡県看護協会東部地区支部
「日帰りで白内障手術を受ける患者の不安要因を知る」
- ・平成 24 年 8 月 22 日 花田 明香（医師）
「自分の足を見てみよう」 東部病院研修棟 1 階
- ・平成 24 年 11 月 28 日 猿渡 南江（管理栄養士）
「おやつを取り方」 東部病院研修棟 1 階

6. 奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設に通っている人を対象とする。当法人が御殿場市医師会病院部会共通の奨学金貸与制度を創案し、他組織の 6 病院も同じ規定を使い、各病院間の奨学生異動もスムーズに行なうことも可能にした日本で唯一の地域である。特に当法人は奨学生が貸与期間終了する際、将来の希望を聴き、他の病院部会所属の病院に就職を希望した場合は、病院部会所属の病院であれば調整し、自由に移動できる体制をひく。奨学生の個々の能力を発揮することに主眼をおいた教育を展開している。（3 病院・訪問看護担当）

平成 24 年度実績

御殿場看護学校：1 年生 8 人 2 年生 12 人 3 年生 9 人

合計 17,400,000 円

その他看護学校：1 年生 1 人 2 年生 0 人 3 年生 3 人

合計 1,440,000 円

7. 訪問看護ステーションの運営

御殿場市・小山町の病院等への通院が困難となった患者・家族のため、平成 11 年に開設した。御殿場市・小山町唯一の訪問看護ステーションとして、地域の在宅医療を守り、推進する。他の地域と比べ、広い範囲の地域を訪問し、重症患者も多く、入退院を繰り返す患者が多い。又医師不足、看護師不足の地域において、24 時間体制は困難を極め、往診、見取りの問題も抱え、訪問看護事業を行なう医療機関は無い。今年度、利用者は 100～110 数名で推移し、訪問件数は 1 ヶ月平均 546 件だった。また夜間、休祭日の呼び出しが、355 件あり利用者の安心のための対応を実施した。亡くなられた方は 43 名で 4 名は在宅での看取りを行う。利用者の中には、ターミナルや医療処置のある方が多く在宅療養を継続する為に、訪問看護師の役割は以前にも増して重要になっている。増加する利用者に対応するため、スタッフの増員を検討したが、訪問看護を希望する看護師は少なく、話があっても採用にはなかなか結びつがず、引き続き労働環境の改善が課題となっている。

今年度は 2 名の看護師が介護支援専門員に合格し、介護支援専門員が 5 名となった。2 名が要介護認定調査員として認定調査を行った。

また、サービスを向上させるため、サービス担当者会議には 1 年間で 103 件参加し、他との連携を積極的に図った。

訪問看護推進事業として、東部管内のいくつかの訪問看護ステーションが連携して、訪問看護の電話相談をしています。当事業所も毎月 1 日参加して、地域とのつながりを密にした。

各種支援活動として看護学校への講師派遣(1名)し、地域に唯一の施設の為、御殿場看護学校学生は全員 5 日間の実習を行なった。更に東京衛生学園専門学校看護学科(通信制)の学生、静岡県立ガンセンター主催の認定看護師教育課程臨地実習 1 名を受入し、将来の看護師に在宅の重要性を教育した。

公的任務として前年度に続き、御殿場市介護保険運営協議会委員(1名)に任命され、職務を遂行した。

24 年度実績

利用者数 110 名、年間死亡患者 43 例(23 年度 59 例で死亡症例が大変多い) 指示書依頼医療機関 22 施設 43 名の先生方から依頼を受けている。

静岡県立がんセンターのターミナル患者も多い。訪問年間回数 6,558 例、夜間祭日相談回数年間 750 例、夜間祭日出動回数 355 例、地域連携サービス担当者会議 103 回参加、

8. グループホームの運営

開所して 11 年になるグループホームは、疾患を持つ認知症患者・生保の患者を優先的に入所させることにより、その独自性を発揮している。疾患を

持つため、入退院を繰返し、採算割れとなっているが、このような方々が安心して入所できる施設として存在意義は大きい。又、全員が富士病院の診療が必要な患者で、認知症と合わせ、各種疾患を日々フォローしなければ、生活できない。今期は居室の稼働率は86%で、退所件数は5件、入所件数は6件と、入所者の入れ替えが多く、富士病院への入院も9件あった。亡くなった5名は入退院を繰り返した利用者たちで、疾患を持った方々ばかりである。この為、訪問看護ステーションと連携して日々の健康管理を行い早期に病気の発見に努めている。病院・訪問看護ステーションと深い連携で管理できているグループホームである。

入所者の入所時の要介護度が高くなり、年間の平均介護度は3.6となっている。車椅子利用者も多く、スタッフの介護負担が多くなり、様々な事態に対して、どうしたらよいか、スタッフ間で話し合いを重ね、事故の無いよう注意しながら柔軟に対応している。

長崎県でグループホーム火災があり、消防署による消防点検もあった。スタッフ会議で話し合いを行い、運営推進会議などで報告し、意見を頂き、入居者のご家族や近隣の方などに安心して頂けるように努めた。

また職員2名が介護福祉士の国家資格試験に合格した。

職員の研修においては、「介護記録の書き方講座」「福祉有償運送運転者講習」「認知症対応型サービス事業管理者研修」「認知症の人のためのケアマネジメント講座」「グループホームにおけるターミナルケア」「今後の認知症施策の方向性・認知症施策推進5カ年計画についての研修会」「介護職のための文章作成術セミナー」「成年後見人制度活用セミナー」など、様々な研修に参加し、研修後は内部研修を兼ねた報告会を行い、職員のキャリアアップに努めた。

地域へ溶け込んだグループホームとして、グループホームごてんば便りを発行。家族、地域・関連施設などに配布し、学生、団体、個人のボランティア受入、介護の質問相談にも無料で対応している。

9. 病院の運営

当法人の病院運営は、地域社会の健全な発展と福祉の向上を目的として、急性期疾患を扱う富士病院、一般病床及び療養介護病床を持つ富士小山病院、一般病床及び腎臓病（透析）センター機能を持つ東部病院を運営している。現在静岡県下の市町村の中で、御殿場市・小山町は唯一公立病院・公的病院を持たない地域であり、公益法人として採算にとらわれず、地域に不足の診療を開設、維持し、又救急全般・心疾患・がん・糖尿・小児医療・予防医学など基幹病院が行なうべき医療を維持発展してきた。当法人はこのように公的病院の役割を担ってその代わりに業務として不採算であろうと、地域の医

療行政に貢献している。また富士小山病院は小山町との間での医療業務協定において、「業務にあたり地域医療を基本とし、町民の健康管理、保健事業並びに町の医療行政を円滑に推進するために協力しなければならない」としている。またコメディカル（看護師、放射線技師、等）について、地域の各医療機関との間での連絡・連携体制をとり、相互支援を行っている。

当法人の3病院の受診者数は、平成25年3月の御殿場市と小山町の調査により、御殿場市では市内国民健康保険の医療機関（病院）受診件数の70.6%（（昨年同月70.2%））に相当し、小山町では77.5%（昨年同月76.7%）に相当する。（御殿場市：国保年金課の資料を元に救急医療課調べ。小山町：住民健康課調べ）御殿場市、小山町の2次救急当番日は内科については80%、外科も80%、小児科待機100%に加え、小児科救急担当として、救急センターにて一次救急を毎週水曜日18時～22時まで勤務する。（平成25年4月2次救急当番表より）

以上の様に、当法人3病院の運営は、地域にとって不可欠な存在となっている。さらに今年の6月からは沼津医師会からの要請で、沼津・三島・裾野地区の内科2次救急輪番担当病院の担当拒否で、富士病院担当を月2日から4日に増加することになった。公立病院・公的病院が多い沼津地区でさえ、内科2次救急の担当は負担が重く、各病院とも対応出来ない現状で、その中で当法人は御殿場市・小山町だけでなく、沼津・三島・裾野の広域においても救急の受入を行なっている。

また、御殿場市・小山町人口109,750人（平成25年5月20日現在）における医師数について、平成22年12月末の厚生労働省調べでは、人口10万人に対する医師数は全国平均230.4名で静岡県は190.3名で最下位から4番目である。中でも御殿場・小山町は登録している医師数が合わせて118名であり、人口10万人に換算すると、107.5名しかいない医師過疎地域である。病院勤務医師数は73名であり、当法人は37名の常勤勤務医を登録し、当該地域の医師数の31.35%を占め、勤務医については半数以上を占めている。（平成22年12月末の医療従事者調査より）

診療科目も精神科・産婦人科・耳鼻咽喉科・美容外科以外の診療科を網羅し、あらゆる疾患に対して専門医が対応できる体制を整備した。又特筆できることは救急体制の整備を断行、3病院とも内科・外科・整形・透析と急性期に必要とされる主要の科を抱え、必要とされる検査機器を整備し、特に富士病院は診断に必要とされる検査機器を大学病院並みに揃え、患者の病態をいち早く把握し、適切な治療を開始できる救急体制を構築してある点である。以下診療の一部を説明する。

9-1 一般外来及び健診事業（富士病院、富士小山病院、東部病院）

御殿場市・小山町の方々を中心に、不特定多数の住民を対象とし、内科、外科、整形外科、眼科、皮膚科、小児科、婦人科、循環器科、心臓血管外科等の診療科を、健診は一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科検診、乳がん検診等を実施している。また地元や各地の事業所等の依頼を受けての出張健診を行うことで住民ニーズに対応して幅広く地域の健康管理に寄与するとともに、検査及びその結果に基づいての診断、健康管理及び予防等の相談にあたっては、当会の持つ医療・看護に関する包括的な技術・知識・能力を背景に対応できることで、地域住民の健康管理に寄与している。特にマンモグラフィ検査は御殿場市、小山町の82%が当法人で検診し、発見から手術、適正な化学療法、術後のリハビリ、そして家族をも取り込んでの患者会活動を隔月行なうなど予防から治療、各種指導、心のケアまで一貫した診療を実施する。地域の乳がん拠点として、行政と他病院医院との連携役と他病院の医師・技師の読影能力向上のために教育、指導を行う。又、検診事業の奉仕活動として、御殿場市・小山町のマンモグラフィ検査の参加病院におけるダブルチェックを富士病院医師と放射線技師が、平成16年から全例行なった。

急性期疾患のみでなく、広く療養介護、透析、その他の症状を持ちうる方々を対象にし、一般外来及び健診を通じて、症状を確認し、病状に応じて3病院で対応する。又患者の病態・希望・家族背景等も考慮して、相談にのり、他病院・他施設の紹介を患者家族の立場に立って行なっている。

当法人しかない科は専門外来、特殊外来のほか、昼間働いている方のニーズに対応するための夜間透析（17時～22時）も地域唯一実施。又痛みの緩和に、ペインクリニックも地域で唯一施行、がん患者等の利用も多い。

24年度実績

年間で延 206,649 人を診察

富士 115,500 人、富士小山 45,699 人、東部 45,450 人

特定健診 富士 1,047 人、富士小山 992 人、東部 669 人

乳がんマンモグラフィ健診 富士 1,030 人、小山 438 人、東部 481 人

子宮ガン検診 富士 1,306 人、

9-2 専門外来

・循環器、心臓血管外科（富士病院）

従来心筋梗塞の患者は遠方まで行かなければ救命できず、年間多数の方が亡くなり、地域医療の最大の問題だった。そこで法人として循環器疾患は、365日24時間体制で常時循環器専門医を勤務させ、緊急カテーテル治療の対応が出来るよう、常にスタッフ待機班〔放射線技師・看護師・臨床工学士〕を組み、受入可能体制を構築。急性心筋梗塞等に対し、緊急カテーテル治療ができる施設となった。救命率は

100%を誇る。(23年度 98.2%:重篤で1名助けられなかった症例あり、22年度 100%) 心臓バイパス手術等の症例も増加、循環器専門医研修施設であり、心臓血管外科医研修関連施設でもある。

24年度実績

カテーテル治療実績 400 例全例開通、内急性心筋梗塞 71 例救命率 100% [全国平均 92% ~ 93% 日本循環器学会調べ]、アブレーション不整脈治療 70 例、心臓血管外科手術症例数 50 例 (心臓バイパス術・弁置換術等全麻手術) ペースメーカー埋込術 47 例 (富士小山 3 例含む)

・呼吸器科 (富士病院)

地域には呼吸器を専門的に診れる病院はなく、特に睡眠時無呼吸疾患の検査認定施設を県下で最初に取得、無呼吸症候群患者は全国では 200 万人以上潜在患者がおり、当地域以外からも受診者の紹介がある。保険点数が低く、撤退する病院が多い中、今後も、病気で苦しむ方々に受診の機会を与えていく。

25年3月末現在実数

在宅酸素療法患者数 58 名、無呼吸症候群治療患者 212 名

・糖尿病 (富士病院・東部病院・富士小山病院)

当地区で 25 年前専門的診療を最初に開始した。開始当初から東京女子医大糖尿病センターからの医師を中心に、日本糖尿病療養指導士を育て、糖尿病指導医を中心に、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師・理学療法士がチームで対応。毎月 1 回、糖尿病教室を開催、当会の患者以外に広く一般にも参加を求め、御殿場市保健師も参加。参加料は無料である。小山病院においても地域公会堂を借りて糖尿病教室を開催。糖尿病委員会は食事療法・運動療法・講座・トピックスの 4 つのチームで構成し、各々教育・啓蒙・指導活動を展開している。平成 25 年度糖尿病認定施設取得予定で、糖尿疾患の緊急対応は指導医医師へ 24 時間 365 日連絡できる体制となっている。専門医学会認定糖尿病指導医 1 名、同非常勤指導医 1 名、糖尿病指導療法士 15 人で地域の糖尿病指導管理及び啓蒙活動のリーダーとして活動する。又佐藤賢医師は日本糖尿病学会中部支部評議委員であり、静岡県糖尿病協会理事を務め、啓蒙活動として多くの講演を実施している。

24年3月末現在実数

法人全体の糖尿受診患者数 1882 人で富士 1,385 名、小山 284 人、東部 213 人 (富士病院延べ患者年 17,136 人、富士小山病院延べ患者年 3,403 人、東部病院延べ患者年 1,056 人)

・消化器内科・消化器外科 (富士病院・東部病院・富士小山病院)

消化器系の救急体制は静岡県東部の最大の課題となっている。当院は現在昼間を中心に吐下血をはじめとする消化器救急は積極的に対応し、昨年は1年間で20例を受け救命活動をしたが、夜間祭日は未だに医師不足で、対応できる医師が当直したときだけに限定している。穿孔による緊急手術も3例実施した。26年4月より消化器内科医師が採用確定し、(消化器病学会・肝臓学会・消化器内視鏡学会各専門医、日本がん治療認定医)、26年3月から消化器外科1名採用が決まり、地域の不足診療体制を徐々にカバーできる体制を構築中である。

24年度実績

上部内視鏡検査 2855 例 (富士小山 233 例、東部 576 例含む) 大腸内視鏡検査 1182 例 (富士小山 76 例、東部 110 例含む) ポリープ切除術 249 例 (東部 19 例含む) ERCP 43 例、ESD 9 例、吐下血緊急入院 20 例、穿孔 3 例、腹腔鏡下胆嚢摘出術 33 例、結腸癌切除術 18 例、小腸癌切除術 6 例、肝癌部分切除術 9 例、膵頭部癌切除術 4 例、胃癌切除術 6 例、イレウス 90 件、虫垂切除 11 例、等消化器系手術合計 254 例

・小児科 (富士病院)

現在社会的な課題である小児医療について、地域のニーズに応えるため、小児医療体制の人的確保、入院ベッド数の確保、子育ての相談体制等を整備した。昭和62年御殿場市からの強い要望で開設、その後、平成5年から小児医療推進、乳幼児保健事業への協力、小児救急対応体制(入院の受入)に対し、御殿場市より補助金を年間1200万円頂き、行政と一体となって地域小児医療の推進を薦めた。現在は御殿場市の財政の都合もあり、補助金は循環器救急と合わせて300万円とわずかで、大きな赤字部門となっているが、公益活動として2名の常勤医師と6名の非常勤医師を雇用、未来を担う子供の命を守っている。

・乳がん

検診から診察、マンモトームによる石灰化病変検査、手術、化学療法、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓蒙活動を実施する。

24年度実績

乳房切除術 (温存) 22 例、乳腺腫溜摘出術 16 例、
その他乳がん系手術の合計 54 例

・泌尿器

地域唯一の入院が受けられる施設で、皮膚排泄機能認定看護師による指導もある。癌手術症例も多く、化学療法患者も多い。裾野市・県外からも結石破碎の紹介もある。

24 年度実績

手術件数 102 件、膀胱腫瘍摘出術 36 件、膀胱経尿道的切除術 14 件、前立腺肥大切除術 25 件、その他 27 件、結石破砕 7 3 件

・眼科

地域唯一の入院が受けられる病院を 2 病院持ち、白内障手術などは当法人施設しか受けられない。2 名の専門医が常勤医師が対応

24 年度手術実績

白内障手術 903 件（富士病院 600 件、富士小山病院 303 件）

・透析

導入管理から急性期の合併症対応、さらには 365 日 24 時間外来透析患者の急変（骨折・心疾患・消化器系・脳疾患など）に緊急透析が出来る体制を整えている御殿場市・小山町・裾野市を含めた唯一の病院である。御殿場市・小山町全体で平成 25 年 6 月現在 314 名の透析患者が治療を受けており、当法人には合併症対応中心の入院患者 34 名、外来 245 名の透析患者の管理を行う。御殿場市・小山町には他に 34 名の透析管理を行う老人病院がある。（この病院は、入院 31 名は広域（県外を含む）の介護を必要とする透析患者の管理を中心に行っており、外来透析患者は 3 名のみ）。又東部病院は御殿場市・小山町・裾野市・箱根町で唯一の夜間透析対応も行なう（25 名）

9-3 特殊診療（東部病院）

・足外来（フットケア外来）

下肢静脈瘤については、弾性ストッキングによる治療を基本とし、必要に応じて硬化療法や手術を行なう。閉塞性動脈硬化症に関しては、「足を守り、命を守る」という信念をもって、予防から治療まで行なう。診断は、バスキュラーラボと連携し、低侵襲かつ確実な診断を目指す。治療法は、薬物治療、血行再建（血管内治療、バイパス手術）、アフェレス治療（LDL 吸着・DFPP）を施行。採算性が無いため、実施している病院が極端に少なく、富士市から伊豆、山梨、神奈川からも紹介患者来院。将来創傷ケアセンターを目指す。

平成 24 年度実績

フットケア外来患者延べ数 2088 人（創傷治療を含む外来受診者数 3,997 人）血管外科手術 76 件、アフェレシス 45 件

・再生医療事業

医師、看護師、薬剤師、血管診療技師（CVT）、臨床工学技士、管理栄養士、医事課職員が集まり、血管新生療法を安全かつ高い質で行うことをめざしたチーム医療です。

厚生労働省から許可された多施設共同研究（ヒト幹細胞臨床研究実施許可：平成 22 年 2 月 25 日、厚生労働省発医政 0225 第 7 号）を中心に活動しています。資料添付

24 年度実績

血管再生施術症例 6 例（全国で 2 位）

・バスキュラーラボ事業

ABI（血圧測定）、皮膚灌流圧（SPP）、エコー、トレッドミルなどの血管に関する検査を行っています。

血管年齢、閉塞性動脈硬化症や静脈瘤の病状、治りにくい傷の治癒予測などを調べます。血管診療技師（CVT）、超音波検査士を中心に低侵襲で精度の高い診断をめざしています。

9-4 救急外来（富士病院・富士小山病院・東部病院）

地域の夜間祭日の 2 次救急は当法人 3 病院が、内科・外科は各々 8 割の日を担当、小児科は 100%、泌尿器も 100%、透析疾患を持つ骨折を含めたあらゆる疾患についても 100%の 365 日受け入れ体制で望んでいる。又平日の診療時間帯は消化器の吐下血患者の受入も出来る限り対応し、整形、眼科、皮膚科なども救急の受入を行なう。夜間の緊急手術も常に待機医師を置き、薬局・検査・レントゲンはもちろん手術室、内視鏡、透析も待機を組み、緊急出動出来る体制をとる。地域における緊急外来搬送数〔救急車による搬送〕について

平成 24 年度実績

法人全体の救急車受入れ件数 1204 件、休日時間外救急対応件数 2,336 件、御殿場市・小山町広域行政組合消防署の調べでは、同署管内で救急出動搬送した件数 2,044 件の内、富士病院に 647 件、富士小山病院 82 件、東部病院 69 件、一次救急を担う救急医療センターに 965 件、他の病院 281 件の搬送となっている。

救急センターで受診した患者のうち、入院を必要とした患者数 557 件中、富士病院に 142 件、富士小山病院に 39 件、東部病院に 17 件が転送され、合計 198 件を受け入れた。また、3 次救急を含めた管外医療機関へは 188 件が転送されている。

救急〔初期搬送のみ〕の受入内容は心疾患 136 件、呼吸器疾患 101 件、消化器疾患 67 件、脳疾患 37 件、小児救急 34 件、泌尿器疾患 32 件、精神疾患 21 件、感覚系疾患 15 例、新生物系疾患 23 件、不明確 203 件、その他 129 件 合計 798 件でした。

他地域からの救急搬送を含めた救急車受入総数は、富士病院で 957 件でした。疾患別内訳は、心疾患 219 件、呼吸器疾患 141 例、消化器疾患

111 件、脳疾患 115 件、小児救急 51 件、泌尿器疾患 39 件、精神疾 3 件、悪性新生物 19 件、不明 10 件、その他 249 件となっています。

富士小山病院では、受入総数 148 件で、疾患別内訳では、脳疾患 15 件、循環器系 14 件、呼吸器系 28 件、腹部内因性 21 件、外傷系 20 件、中毒 2 件その他 48 件でした。

東部病院では、救急車受入総数は 99 件で、その内訳は脳疾患 10 件、循環器系 8 件、呼吸器系 12 件、外傷系 11 件、中毒 5 件、その他 53 件でした。

また、御殿場救急医療センターからの入院搬送と他病院からの入院搬送、他地域からの救急車と外来の救急直入の患者様を加わえると休日時間外における救急対応件数は、富士病院 1,630 件、富士小山病院 226 件、東部病院 491 件でした。

富士病院及び富士小山病院では、近隣の老人施設〔特別養護老人施設、有料老人施設など〕と緊急時の受け入れ契約を交わし、入所者やその家族の安心に貢献している。

9-5 在宅訪問診療

通院できない患者の為に、訪問看護ステーションと連携して往診を実施している。又連携施設〔特別養護老人ホーム・有料老人ホームなど〕への定期往診も 7 施設実施。

24 年度実績

訪問患者数 60 人訪問回数 1639 件

9-6 一般病棟（富士病院・東部病院・富士小山病院）

富士病院・富士小山病院・東部病院とも総合的に診療科を開設し、かつ一般病床を持つ中核病院として採算を考えず、地域の課題に応え続けている病院である。地域（御殿場市・小山町・神奈川県箱根町・山梨県山中湖村周辺）で当院しか入院対応ができない疾患は急性心筋梗塞をはじめとする心疾患・手術を必要とする消化器疾患全般・乳がん・小児疾患・泌尿器疾患・腎臓疾患・糖尿疾患・呼吸器疾患（重篤）・無呼吸症候群・透析患者のすべての合併症・眼科疾患〔以上富士病院〕、血管疾患・透析患者のすべての合併症・フットケア関係〔以上東部病院〕眼科疾患、〔富士小山病院〕など数多くある。

以上のように入院については、心筋梗塞を中心とした心臓 24 時間 365 日体制と広範囲な内科救急と小児、救急も 24 時間 365 日受け入れ態勢を維持しようとしている病院群で外科・整形・泌尿器も救急対応を行なっている。二次救急（入院を要する救急医療を指し、当法人は手術への対

応も可能としている)を中心として、多様な患者、多様なニーズに応えている。特に富士病院は平均月280人の新入院患者を受け入れ、平均在院日数は11日台と公立病院より短い期間で退院させている。2次救急の受け持ち日数は法人全体で365日の8割を担当、救急センターからの転入患者数は常に一番多い。また県立がんセンターと深い連携を持って、がん撲滅に多方面で関与している。

又退院後のケアにも重点をおき、在宅訪問には訪問看護ステーションごてんばが関わり、認知症の方はグループホームを利用するなど、地域連携室・医療相談室の看護師と社会福祉士の関与で、退院後の療養に最適な施設・社会資源の活用・在宅における日常生活指導をスムーズに導く。病院 訪問在宅 グループホームを一体とした連携システムをとっている。

富士病院は個室46室、2人部屋4室、3人部屋4室、4人部屋22室、看護基準7:1の3看護単位154床と、新たにICU/CCU6床を耐震化工事が完成後、平成26年5月から本格稼働予定の急性期病院で、昨年一日平均入院患者数は115名で平均在院日数は10.6日である。医師が24時間365日管理体制で臨む本格的ICUは御殿場市・小山町初で、沼津より北の地域でも3病院目となる。

富士小山病院は個室5室、2人部屋1室、4人部屋5室、6人部屋2室の一般病床39床にて、看護基準10:1、診療科混合の急性期病床として対応している。昨年度実績は、一日平均入院数22名、平均在院日数9.3日である。

東部病院は個室3室、2人部屋2室、6人部屋3室、6人部屋3室、7人部屋5室の一般病床60床にて、看護基準10:1、診療科混合の急性期病床として対応している。昨年度実績は、一日平均入院数26.5名、平均在院日数16.6日でした。

9-7 療養病棟(富士小山病院)

平成14年小山町と一般病床39床と療養病床60床の運営を町民のために行なう協定を交わした。個室10室、3人部屋6室、4人部屋8室の療養病床60床にて、人員配置 型・療養環境基準型・夜間勤務条件基準加算 型の療養病床として対応している。

生活保護者等の入所も積極的に行っている。またケアミックス病院として、急性期から慢性期への移動がスムーズに行え、患者様及びご家族の待機等の負担を軽減している。

昨年度実績は、月平均入院数58名

9-8 医療協力・派遣・ボランティア

すべての医療を、統括的に行なっている当法人は病院・医院からのみでなく、行政・学校・企業からも医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣など多く受けている。

24年度実績

- ・御殿場市救急医療センターの一次救急の代行年3回
- ・御殿場市救急医療センターの緊急当直医代行派遣
- ・医師会依頼の馬術競技への看護師派遣等各種大会の医師・看護師支援と緊急時の受入
- ・野外研修・マラソン・体育大会などの医療協力
- ・県立がんセンターとの連携でリレーフォーライフ開催時のボランティア参加・募金活動
- ・オックスファム・トレイルウォーカー・ジャパンの医療担当看護師派遣
- ・御殿場西高校修学旅行付き添い看護師派遣
- ・災害時のボランティア派遣活動

9-9 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として活動し、オープンシステムをいち早く導入。その内容は、当院の専門医に対して必要な検査・診療の依頼、場合により開業医の先生自ら検査・診察を行ない、結果を開業医の先生方にお返しするシステムである。検査依頼については内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図など広範囲で、依頼票を地域の病院・診療所に配布している。依頼に対して当院の専門医・読影医等が検査結果報告書等を記入して患者とともにお返しする。病院・診療所における不足の部分を当院でカバーすることにより、効率よく安全で質の高い医療をこの地域で展開できることに貢献している。又、当院に入院中の患者の診察も、希望があれば自由に来院していただき、連携を取りながら診療に参加できるよう院内を開放している。このように他病院・開業医から要望があれば出来る限りそれに応え、協力し、時には医師・技師・看護師を派遣するなど、地域医療の水準が向上し、発展寄与することを前提にした運営を行っている。この診療連携については現在12診療所の先生方が利用し、MRI/CT等の検査依頼については歯科診療所を含め、37施設の診療所・病院が利用し、患者の利益に寄与している。又老人福祉施設との診療連携は27施設に及び、お年寄りの健康管理にも寄与している。

24年度実績

CT・MRIの利用件数

富士病院 MRI 10 施設 33 例 CT 14 施設 174 例、超音波検査 5 施設 20 例 大腸内視鏡検査 11 施設 53 例、胃内視鏡 7 施設 8 例、冠動脈造影 1 施設 1 例、インプラント撮影 1 施設 3 例、その他 5 施設 34 例

東部病院 CT・・富井医院 26 例、東山クリニック 28 例、荒川クリニック 28 例、高根デンタルクリニック 25 例、岡山医院 3 例

9-10 各病院の収支状況・概要のまとめ

富士病院の事業概要

1) 収支状況

平成 24 年度は耐震化工事の 2 期工事期間中であり、患者受入制限、消耗備品・設備の購入、減価償却の増大などマイナス要素を吸収できず、大きな赤字となってしまいました。医業収入は、外来収入が 1,430,881 千円(前期比 10.2%増) 入院収入が、2,475,232 千円(前期比 13.2%増) その他医業収入が 231,212 千円(前期比 1%増) 室料差額 110,238 千円(前期比 19.2%増) となりました。総額で 4,239,286 円(前期比 12.1%457,715 千円増加で予算比 0.6%増) となり、収入においては予算額を達成できました。しかし医業費用については、医薬品 6.8%増、診療材料 28.0%増と前期比 457,71 千円増加し、予算額との比較でも 37,363 千円増加しました。人件費は医業収入の 53%となり、委託費は減少したものの、賃借料、電気代、消耗器具備品、減価償却も増加しました。医業外収益を含めても経常利益は 39,498 千円となった。

以上の結果医業費用は 4,312,563 円となり、医業利益は 73,277,236 となりました。これに固定資産除却損失等を加え、最終的には当期利益は 62,696,636 円となった。次期繰越利益は 968,283 円となる。

2) 広報広域活動

公的病院の役割を担い、地域の急性期医療を担う当院は、地域のすべての方々が健康について安心して暮らせるようにと、さまざまな広報活動を行いました。また、各種団体のメンバーとして活動している。

市民に向けての減災の日キャンペーン、糖尿病予防キャンペーン・糖尿病教室など企画した。

看護学習体験受け入れ(1日ナース体験) 静岡県ナースセンター
一事業

御殿場看護学校、昭和大学、東海大学・各種専門学校の実習生の育成事業習受け入れ

救急救命士就業前後病院研修受け入れ

医療従事者の育成事業 262 件 372 名研修会参加など

研修会の講師等

学会・地方会の発表等

職場体験学習

各種相談助言による支援活動生活困窮者に対する支援の実施、8,366,070 円等

下記各種団体のメンバーとして医療関係を中心に活動し、その発展に寄与しました。そのほか各職域での地域活動にも各部署で積極的に参加を促し、その他にも音楽を通じた教育文化活動、検眼活動、地域の都市開発の評価・提案など未来の都市づくりにも参画しております。

御殿場市医師会理事

御殿場看護学校副校長

御殿場市医師会病院部会代表

マウント FUJI 交響楽団団長

沼津地区ロータリークラブ会長

ふじの国地域医療視線センター東部運営委員

東部緩和医療研究会世話人（3 名）

御殿場・小山障害自立支援協議会委員 1 名

静岡県看護連盟御殿場支部支部長

日本消化器内視鏡技師会東海支部会長兼静岡支部会長

御殿場看護学校（非常勤講師 25 名）

静岡県臨床検査技師会支部役員

日本超音波検査学会代議員 1 名

静岡県医療ソーシャルワーカー協会理事

静岡県放射線技師会東部地区役員・北駿支部長

静岡県放射線セミナーマネージメント（技師会長）幹事

御殿場市小山地区MC協議会委員

御殿場市小山地区MC協議会運営部会副部長

御殿場市小山地区MC協議会症例検討部会委員

広域救急医療体制構築委員会委員

日本糖尿病学会学術評議委員（中部地区）

静岡県給食協会御殿場支部理事・副会長

御殿場駅東地区まちづくり懇話会委員

御殿場市バリアフリー基本構想協議会委員
御殿場市バリアフリー基本構想懇話会構成員・副座長
御殿場市国保運営委員（2名）
御殿場市介護保険運営協議会（委員1名）

3) 院内院外研修

より質の高い医療サービスをめざし、医療安全対策委員会、院内感染委員会、防災対策委員会、看護課教育委員会、新人看護職員研修等362件、院内研修107件を行いました。また、各種団体の院外研修会に公費にて延べ307件に参加しました。

富士小山病院の事業概要

1) 収支状況

小山町唯一の病院として、地域の皆様とふれあいを大切に、職員一同、医療介護サービスの充実、業務の効率化、コストリダクションを一致団結して、推し進めてきました。

医業収入は、外来収入が400,763千円（予算比0.5%増）、入院収入が、586,597千円（予算費2.9%減）となり、結果総額987,360千円の対予算15,475千円（予算比1.5%減）減額となりました。予算比較において、外来は、内科、眼科患者の増員（延べ約3,300名）と近隣新規診療所オープンにより整形外科患者の減員（延べ約1,000名）及び透析患者の減員（延べ約900名）により、一日平均患者数は176名にて、予算目標173名に対して微増となったが、一人当たりの診療単価7,604円と予算206円減額とり、1,914千円の微増（前年に対しては1.9%増、7,605千円増収）となりました。入院は、一般病棟が、日当点は3,281点で183点増加しましたが、一日平均入院患者数が21.4名と予算約3名の減員となり、予算比6.9%減の対予算19,035千円減収（前年に対しても11.2%減、32,369千円減収）となりました。療養病棟は、年間平均稼働率98%と予算目標を達成し、平均単価230円増により、予算比0.5%増の1,646千円の増収（前年に対しては1.2%増、4,051千円増収）となりました。他、町委託健診の増加、一般健診の減少、介護処遇改善交付金等の補助金増加等により、医業収入全体で、予算比1.2%減額の12,599千円の減額と、目標額を下回りました。

医業費用については、予算額より6,713千円（予算比0.6%減）下回りました。詳細は、材料費は予算比5.5%減（コストリダクション等）、委託費は予算比2.8%減（検査、保守）、諸経費は予算比5.8%増（建物及び付属設備等の老朽かによる故障点検修繕、備品の修理故障等）

減価償却は予算比9.9%減(予定更新なし)となります。

以上の結果に、特別利益として修繕引当金の取り崩しを行い、当期は69,151千円(予算比129.3%増)利益計上となりました。

2) 広報広域活動

「富士小山病院」が地域密着型病院として地域の方々に定着するよう、さまざまな広報活動を行いました。また、各種団体のメンバーとして活動致しました。

健康フェスタふじおやま

看護学習体験受け入れ(1日ナース体験) 静岡県ナースセンター事業

介護体験学習受け入れ

救急救命士就業前後病院研修受け入れ

療養病棟の催し物として、春祭り(4/14)、敬老会(9/15)、療養入所者クリスマス会(12/15)等を行い、患者様をはじめ、ご家族、地域のボランティアの方々にご参加いただき、交流を図りました。

11月27日から12月1日に、御殿場西高等学校海外修学旅行の引率に看護師1名を派遣しました。

5月12日国際協力団体オックスファム主催によるオックスファム・トレイルウォーカー・ジャパンの医療ボランティアとして、看護師2名を派遣しました。

5月28日から6月1日緊急人材育成支援事業による3名のホームヘルパー2級過程の職業訓練実習の受け入れをしました。

研修会の講師等

下記各種団体のメンバーとして活動しました。

御殿場小山介護保険認定審査会(委員1名)

御殿場市介護保険運営協議会(委員1名)

御殿場市国民保護協議会(委員1名)

静岡県看護協会(東部地区支部幹事1名)

静岡県看護部長会(会長1名)

静岡県看護連盟(御殿場エリア支部役員1名)

全国病院理学療法協会(静岡県支部副支部長1名、中部会執行役員2名)

御殿場看護学校(講師2名)

3) 院内院外研修

より質の高い医療サービスをめざし、医療安全対策委員会、院内感染委員会、防災対策委員会、看護課教育委員会、新人看護職員研修等、院内研修 95 件を行いました。また、各種団体の院外研修会に公費にて延べ 75 件に参加しました。

東部病院の事業概要

1) 収支状況

平成 24 年度の医業収益は、1,062,927 千円で、前期比 95,724 千円となりました。

外来診療収益が 673,001 千円（前期比 24,471 千円）、入院診療収益が 328,207 千円（前期比 57,635 千円）となり、当期損益は 26,930 千円（前期比 1,410 千円、予算比 31,182 千円）と 2 期連続の減収・減益 となりました。

主要因として常勤の透析管理医師の補充がされず患者受入が困難であったこと、また常勤医師の開業退職に伴い、入院外来ともに患者数が大幅に減少いたしました。

外来は、延べ患者数 45450 名（前期比 2887 名）一日平均患者数で前期比 15.1 人の減となりました。

入院は、年間延べ在院患者数が 9,686 人（前期比 2119 人）一日平均入院患者数は 26.5 人となり（前期比 5.8 人）大きく減少いたしました。

入院診療収入改善のため、24 年 1 月から入院基本料の看護基準を 10 : 1 の引上げ、『患者サポート加算』、『医療安全管理加算』、『糖尿病透析指導管理料』をそれぞれ今期新たに取得し、診療単価の引き上げを図りました。

健診等の保健予防活動収益及びその他医業収益の減収は大手契約先のリコーの工場閉鎖により、産業医報酬・人間ドック・健診数が減少。健診受託企業数は 2146 件と前年比 117 件の増加がはかれたものの、前期比 15,164 千円の減収となりました。

費用については、念願の常勤透析管理医師の 4 月からの就任が決まったことから、透析関連収入の増加と、非常勤医師の雇用を見直し、新年度は月額 122 万のコスト削減をしており、今後は収支改善が図られてまいります。

その他のコスト削減として電気使用量を管理することにより、年間 136 万円の削減効果が出ております。

東部病院の特色の一つである足外来患者はフットケア患者数延べ 2088 人、創傷治癒を含む外科受診者数は昨年度延べ 3997 名を数

えるにいたっております。

なお、血管外科手術件数は76件、ヒト幹細胞臨床研究に基づく、血管再生施術件数6件でした。

2) 広報広域活動

院外講師

花田医師(血管外科)、猿渡 南江(管理栄養士)

護学校等講師派遣

御殿場看護学校講師 3名(金刺、近藤、石村)

東部看護学校講師 1名(近藤)

東海大沼津校講師 1名(ME 高橋)

院内での院外へ向けての講習会

1)透析合併症について1(講師:若林医師、花田医師)

2)透析合併症について2(講師:若林医師、花田医師)

実習受入れ

御殿場看護学校 3年生 在宅実習看護論実習の一部(透析、外来、統合)2単位(90時間のうち、21時間)

5月~11月 3年生 26名

御殿場看護学校 9月~3月 2年生 成人・老年実習 1年生 基礎実習

職場体験実習 須山中学校2年生 2名(10月)

高校生1日ナース体験 2名(7月26日)

看護協会関連研修会参加

実習指導者講習会:病棟 岡本

医療安全管理責任者研修(7日間):病棟 湯山

患者集団指導

糖尿病関連

花田医師「足を見よう」

岡本医師「糖尿病合併症:腎臓」

猿渡管理栄養士「おやつの摂り方」

佐野理学療法士「糖尿病の運動療法」

透析関連

震災に備えて

災害伝言ダイヤル訓練 8月1日・2日

「シャント管理」について 11月19日、11月22日

研究発表等

院内研究発表会

上部消化管内視鏡検査の咽頭麻酔の工夫
透析患者の食事管理に必要な情報源と情報の取得方法
病棟における血糖チェック・インスリン施行時のインシデント
医師学会発表等
花田医師
御殿場医師会協力
馬術・スポーツセンター事業の看護師派遣
7月20～22日、10月26～28日：勝間田 拓己
健康フェスタしゃくなげ祭：4月22日
ボランティア活動
東日本大震災における派遣
日本透析学会依頼 23年3月25日から3月31日 1名
がん患者支援リレー・フォー・ライフ静岡 4名

3) 院内院外研修

より質の高い医療サービスをめざし、医療安全対策委員会、院内感染委員会、防災対策委員会、看護課教育委員会、新人看護職員研修等、院内研修57件を行いました。また、各種団体の院外研修会にて延べ35件に参加しました。

院内研修

医療安全管理、感染対策研修会 年7回(合計13回)
以外も院内勉強会 年20回
「うつについて」「血管障害関連」その他
合同カンファレンス 年12回
MR 勉強会及び症例検討会 月1回
助手研修9回